

# めぐみイエス・キリスト教会

2019年3月31日(日)第五主日礼拝  
週報「通算第449号」



2019年標題聖句

第Ⅱペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまりくことなど決してありません。》

|           |       |               |
|-----------|-------|---------------|
| 第一礼拝      | 毎週日曜日 | 午前10時～11時     |
| 第二礼拝      | 毎週日曜日 | 午後6時～7時       |
| 聖書の学びと祈り会 | 毎週水曜日 | 午後6時15分～7時15分 |

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年3月31日(第五主日礼拝)

第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時

司会・奏楽 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌171「今日まで守られ」 p. 246

【交読文】 No.31 詩篇第100篇 p. 904

【賛美Ⅱ】 新聖歌172「望みも消え行くまでに」 p. 248

【使徒信条】 【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.9「ひとつの心」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書18章3節～8節(新約p. 198下段)

【祈 禱】

【説 教】 《だれを捜すのか》 鈴木 竜実 牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

●ポイント1. 共観福音書における平行記事から

※マタイの福音書26章47節～50節「レビの見た光景」(新約p.52上段)

26:47 イエスがまだ話しておられるうちに、見よ、十二弟子のひとりであるユダがやって来た。剣や棒を手にした大ぜいの群衆も一緒であった。群衆はみな、祭司長、民の長老たちから差し向けられたものであった。

26:48 イエスを裏切る者は、彼らと合図を決めて、「私が口づけをするのが、その人だ。その人をつかまえるのだ。」と言っておいた。

26:49 それで、彼はすぐにイエスに近づき、「先生。お元気で。」と言って、口づけした。

26:50 イエスは彼に、「友よ。何のために来たのですか。」と言われた。そのとき、群衆が来て、イエスに手をかけて捕えた。

●ポイント2. 問い「だれを捜すのか」・答え「ナザレ人イエスを」

※マタイの福音書2章23節「この方はナザレ人と呼ばれる」(新約p.3上段)

そして、ナザレという町に行って住んだ。これは預言者たちを通して「この方はナザレ人と呼ばれる。」と言われた事が成就する為であった。

※マタイの福音書21章10節～11節「しゅろの日曜日に」(新約p.38上段)

21:10 こうして、イエスがエルサレムにはいられると、都中がこぞって騒ぎ立ち、「この方は、どういう方なのか。」と言った。

21:11 群衆は、「この方は、ガリラヤのナザレの、預言者イエスだ。」と言った。

●ポイント3.「それは私です」と言う言葉の意味とは？

※出エジプト記3章13節～14節「モーセへの神の答え」(旧約p.91上段)

3:13 モーセは神に申し上げた。「今、私はイスラエル人のところに行きます。私が彼らに『あなたがたの父祖の神が、私をあなたがたのもとに遣わされました。』と言えば、彼らは、『その名は何ですか。』と私に聞くでしょう。私は、何と答えたらよいのでしょうか。」

3:14 神はモーセに仰せられた。「私は、『私はある。』という者である。」また仰せられた。「あなたはイスラエル人にこう告げなければならない。『私はあるという方が、私をあなたがたのところへ遣わされた。』と。」

※ヨハネの福音書8章53節～58節「ユダヤ人への言葉」(新約p.178上段)

※マタイの福音書26章52節～54節「レビの聞いた言葉」(新約p.52上段)

26:52 そのとき、イエスは彼に言われた。「剣をもとに納めなさい。剣を取る者はみな剣で滅びます。

26:53 それとも、私が父にお願いして、十二軍団よりも多くの御使いを、今私の配下に置いていただくことができないとでも思うのですか。

26:54 だが、そのようなことをすれば、こうならなければならないと書いてある聖書が、どうして実現されましょう。」

## ◎先週のメッセージの概要【ゲッセマネの園】

《主イエス様と十一弟子たちは、エルサレムを後にし、ゲッセマネの園に向かったのです。ヨハネは、主のなされた「ゲッセマネの祈り」については、何も書き記していません。これは、すでに、三つの共観福音書があったからです。

マタイによれば、『イエス様は、ペテロとヤコブとヨハネとを一緒に連れて行き、ご自分と一緒に目をさましてるように命じられ、少し進んで行って、ひれ伏して祈られた。それから一時間後に弟子たちの所に戻って来て、彼らの眠っているのを見つけ、言われた。「あなたがたは、そんなに、一時間でも、私と一緒に目をさましてすることができなかつたのか。誘惑に陥らないように、目をさまして、祈っていなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。」

このことを、イエス様は三度ほど繰り返された。「まだ眠って休んでいるのですか。見なさい。時が来ました。人の子は罪人たちの手に渡されるのです。私を裏切る者が近づきました。」見よ。イエス様がまだ話しておられるうちに、十二弟子のひとりであるイスカリオテのユダが、武器を手にした大勢の群衆を引き連れてやって来た。』となっています。

主イエス様は、ヨハネによれば、過越の祭りの六日前にベタニヤに来られたことが分かります。つまりマルタとマリヤと弟ラザロの家から、エルサレムに通ったのです。その時、行き帰りの通りのゲッセマネにおいて、寄り道をなされ祈っておられたようなのです。このことを、ユダは記憶していたのです。

ヨハネは「イエスを裏切ろうとしていた」と書き、またマタイも、イエス様が「私を裏切る者が近づきました」と言われたことを書いています。過去形「裏切った」ではないのです。何とこの時には、まだユダの裏切りは確定していません。すでに銀貨三十枚を受け取っていたにもかかわらずです。

イザヤは、『主を求めよ。お会いできる間に。近くにおられるうちに、呼び求めよ。悪者はおのれの道を捨て、主に帰れ。そうすれば、主はあわれんで下さる。私たちの神に帰れ。豊かに赦して下さるから。』と、預言しています。これこそが父なる神の願いなのです。それゆえ、神の御子であるイエス様を十字架にかけられたのです。人類に「救い主」を送って下さったのです。》

## ◎お知らせ

※次回礼拝は4月7日(日)です。また次回「聖書の学びと祈り会」は4月3日(水)午後6時15分からです。